

岩手県金融経済概況（平成 30 年 5 月）

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少傾向にある。住宅投資は下げ止まっている。設備投資は増加傾向を維持している。

生産は、緩やかに持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、16 ヶ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；平成 30 年 4 月）は、2 ヶ月振りに前年を下回った（前年比△8.7%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；平成 30 年 4 月）は、2 ヶ月振りに前年を下回った（前年比△1.9%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；平成 30 年 5 月）は、9 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△5.5%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（平成 30 年 5 月）は、6 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△37.8%）。

新設住宅着工戸数（平成 30 年 4 月）は、2 ヶ月連続で前年を上回った（前

年比+36.6%)。

—— 持家（前年比+12.8%）が2ヵ月振りに前年を上回ったほか、貸家（同+17.8%）、分譲（同9.7倍）ともに2ヵ月連続で前年を上回った。

民間設備投資（短観ベース；平成29年度実績見込み、30年度計画）は、29年度は前年比ほぼ横這い（前年比△0.9%）の見込みとなっているものの、30年度は前年を1割方下回る計画（同△10.2%）となっている。

—— 平成29年度（実績見込み）は、製造業の一部で能増投資を後ろ倒しする先がみられるものの、製造業、非製造業とも概ね前年並みの見込み。

—— 平成30年度（計画）は、製造業が小幅増加の一方で、非製造業は既往の投資一服や復興需要の減少等から前年を2割強下回る計画となっており、全産業では前年に比べ1割方減少する計画。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（平成30年4月）は、4ヵ月連続で前年を下回った（前年比△3.9%）。

3. 生産動向

生産は、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；平成30年3月）は、2ヵ月連続で前月を下回った（前月比△4.5%）。

—— 主要業種別にみると、輸送機械、プラスチック製品、電子部品・デバイスが上昇し、食料品、化学、印刷が低下した。

なお、四半期の動きをみると、30/1～3月は2期振りに前期比減となった（29/4～6月：前期比+2.7%、7～9月：同△3.8%、10～12月：同+3.1%、30/1～3月：同△4.0%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；平成30年4月）は、1.45倍と高水準を維持している（平成25年5月以降60ヵ月連続で1.00倍以上で推移<過去最長>）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；平成30年4月）は、前年を上回った（前年比+0.7%；平成24年3月以降74ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；平成30年3月）は、名目賃金指数（前年比+1.5%）

が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△3.7%）が前年を下回ったため、3ヵ月連続で前年を下回った（同△2.2%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；平成30年4月）は、光熱・水道および交通・通信の上昇等を主因に16ヵ月連続で前年を上回った（前年比+0.9%）。

6. 企業倒産

企業倒産（平成30年5月）は、3件、2,157百万円（前年同月；3件、515百万円）と落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（平成30年4月）は、預金は前年を下回った一方、貸出は前年を上回った。貸出約定平均金利は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>